

公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団

2016年度（後期）指定公募

「市民への集い開催への助成」

完了報告書

指定テーマ

「在宅医療」知っていますか？家で最期まで療養したい人
に。

平成29年10月20日

サブテーマ：住み慣れた地域で人生最後まで穏やかに暮らせる社会を目指して

申請者 : 井上 龍介
所属機関 : 株式会社タイコー堂薬局本店
提出年月日 : 平成29年11月19日

市民公開講座

「在宅医療」知っていますか？家で最期まで療養したい人に。

住み慣れた地域で人生最後まで穏やかに暮らせる社会を目指して

日時：平成29年10月20日（金）開場18：00

開演18：30～20：30

会場：和歌山市市民会館小ホール（和歌山市伝法橋南ノ丁7）

参加者：299名

台風の影響で足元の悪い中、また平日の夜にもかかわらず多くの方々が参加していただきました。



講演会

講師

小澤 竹俊 先生（めぐみ在宅クリニック 院長）

内容

- 1.苦しむ人への援助と5つの課題
- 2.援助的コミュニケーション
- 3.相手の苦しみについてキャッチする
- 4.相手の支えについてキャッチする
- 5.支えようとする私たちの支えを知る



『在宅医療』を知っていますか？
～家で最期まで療養したい人に～

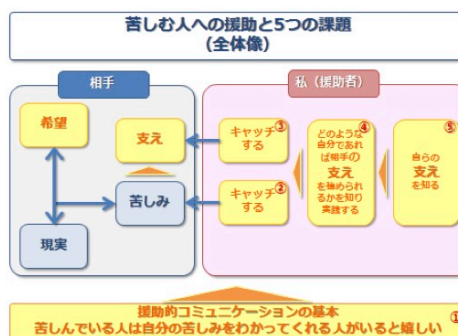
めぐみ在宅クリニック 小澤竹俊

1. 苦しむ人への援助と5つの課題（援助を言葉にすること）。

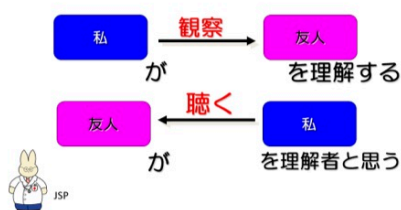
安心して住み慣れた地域で最期まで過ごせるために、私たちは何を学ぶと良いのでしょうか？励ましは通じない看取りの現場で学んで来たことは、死を前にした人に私たちができることです。

2. 援助的コミュニケーション

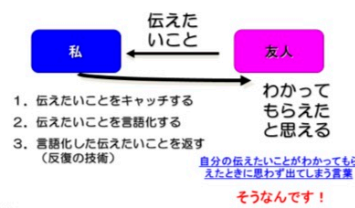
ポイント 苦しんでいる人は、自分の苦しみをわかってくれる人がいると嬉しい



ほんとうに苦しんでいる人の
気持ちを理解できるでしょうか？



援助的コミュニケーション



3. 相手の苦しみについてキャッチする

苦しみは、希望と現実の開きです。このように考えると、苦しむのは、病気やケガで苦しむ患者さん・家族だけではなく、あたりまえに生活している私たちも苦しみをかかえて生きていることに気づくでしょう。

4. 相手の支えについて、キャッチする

苦しみが残り続けても、人は支えがあると穏やかになります。支えには、将来の夢、支えとなる関係、自分で選ぶことのできる自由の3つがあります。特にトイレに行くことのできない苦しみは、自分でトイレに行くことを選べない苦しみと捉え、援助の可能性を紹介し、尊厳が奪われる苦しみの中で、自分の支えに気づく時、穏やかに過ごせる可能性が見えてきます。また、たとえ、相手が話ができない状況であったとしても、その人が大切にしてきたことを言葉にできるとき、支えを強めることは不可能ではありません。

5. 支えようとする私たちの支えを知る

力になれるから関わられるのではなく、力になれなくても逃げないで向き合っていくためには、支えようとする人こそ、支えが必要になってきます。

さらなる学習したい人にむけて：

1. エンドオブライフ・ケア援助者養成基礎講座（エンドオブライフ・ケア協会 HP にて案内）
2. 小澤竹俊 死を前にした人にあなたは何かができますか？（医学書院）
3. 小澤竹俊 今日が人生最後の日だと思って生きなさい（アスコム）
4. 小澤竹俊 苦しみの中でも幸せは見つかる（扶桑社）

2800人を
看取った
医師が伝える
人生にとって
大切なこととは



講師 **小澤 竹俊氏**
めぐみ在宅クリニック 院長

「ホスピスで学んだことを伝えたい」との思いから、2000年より学校を中心に「いのちの授業」を展開。「ホスピスマインドの伝道師」として精力的な活動を続けてきた。多死時代に向けた人生の最終段階に対応できる人材育成プロジェクトを開始し、2015年、一般社団法人エンドオブライフ・ケア協会を設立し、理事に就任。現在に至る。

2017.3.6放送
「NHKプロフェッショナル」出演



シリーズ累計 30万部突破!!

『在宅医療』知っていますか？
家で最期まで療養したい人に。

住み慣れた地域で
人生最後まで
穏やかに暮らせる
社会を目指して

10月20日(金)

開場 18:00

開演 18:30~20:30

入場無料

どなたでも参加できます

和歌山市市民会館
小ホール

和歌山県和歌山市伝法橋南ノ丁7
TEL: 073-432-1212

共催: 地域貢献団体あーふあ-afa
医療・福祉ネットワークほうれん草
パパチカ、一般社団法人ひとまちプロジェクト
助成: 公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団
問い合わせ: タイコー堂グループ本部
TEL: 072-452-9100 担当: 井上

目的

日本は今、これから到来する超高齢社会、多死社会を見据え、地域包括ケアシステムの構築が推進されている。合言葉のひとつに「病院から在宅へ」がある。「在宅医療」とはどのようなものなのか？本当に地域で、在宅で「看取り」が行われるのか？またそのためには、我々はどうすればいいのか？何が必要なのか？を、誰もが考えられる機会をつくる。

手段

医療・介護の提供側の人々と受け手側の一般市民の両方に影響力・説得力のある方を講師に迎え講演会を行い「在宅医療」「看取り」を考える機会とする。めぐみ在宅クリニックの小澤竹俊先生は今年3月にNHKの番組で取り上げられたり、書籍を出版するなど、まさに希望する講師に当てはまる。誰もにわかりやすく、自分ごとと捉えられる講演内容であるよう依頼した。

結果

講演会終了から直接話したり、アンケートに、SNSにと多くの方からこの講演会の賞賛の声をいただきました。その多くが「在宅医療」なら自宅で亡くなることできるなど、自宅での「看取り」に対して前向きな意見であった。

感想

「一期一会」たった1度の出会いでも、人生が大きく変わることがある。今回の講演会もそのような機会となる可能性があるのではないだろうか。受け手によって、明日からの一步はそれぞれ違う。けれども、「人は必ず死ぬ」という現実は何も変わらない。そのために自分にできることを考えるという時間は、参加された皆が共有できた。家で最期まで・・・と願う人が多い一方で、5人に1人しかそれを実現できないのが現実。なぜ、そうになってしまうのか。何が原因なのか。どうすればいいのか。これから生きる私たちが真剣に向き合って考えなければならない問題である。避けてはいけない問題である。誰もが、自分らしく最期まで生ききるために。誰もが、素晴らしい人生であったと思えるために。